

体系的な音楽教育のための音楽科教科書の課題

—共通事項の取り扱いについての分析—

稲木 真司

Issues on the Current Music Textbooks for Systematic Music Education

—Analysis on How Common Musical Concepts are Introduced—

Shinji INAGI

1. はじめに

現在の小学校における音楽教育は平成20年3月に告示された「小学校学習指導要領音楽科」に準拠したものとなっているが、文部科学省が提供している学習指導要領および解説には、音楽を構成する基本的な要素である音程やリズムを教える方法、いわゆるメソドロジーは一切載っていない。現代の学問や教育の起源である古代ギリシャにおいて、「音楽」(Mousike)は芸術というよりむしろ科学的な学問として認識されていたことから明らかのように、音楽も算数や国語のように段階的にかつ体系的に教えられる必要がある。前稿では、日本の音楽教科書とハンガリーの音楽科教科書を比較分析し、音楽の読み書きの能力(ミュージック・リテラシー)を養うという観点から、現行の日本の音楽科教科書の課題を明らかにした。そこで本論では、小学校における音楽教育を通して学ぶことになっている音楽的内容、〔共通事項〕がどのように各学年に分配され、どのような順序で教えられているのかを、現行の学習指導要領や音楽科教科書から明らかにする。

2. 分析方法

現行の音楽教科書は、教育出版と教育芸術社の2社から出版されている。本論ではこれら2つの音楽科教科書を分析・比較することにより、音楽的内容、つまり音符や休符、音部、拍子、および様々な記号(速度記号、強弱記号、反復記号など)がそれぞれどのように紹介されているのかを調べる。各音楽的内容が初めて掲載されているページを見つけ、教科書を読む児童がそれを理解できるように適切に説明されているかを調べる。また、各音楽的内容が初めて掲載される際に説明がない場合は、どの学年でそれが「正式に」教えられているのかについても調べる。

3. 音楽科教科書における共通事項の取り扱い

平成20年に告示された現行の学習指導要領においては、37の音楽的内容が〔共通事項〕とし

で挙げられている。この共通事項とは、例えば国語科に例えてみれば、6年間で学習することになっている「常用漢字」1,006字の一覧表に当たるものである。国語科の場合、それら1,006字の漢字がそれぞれの学年で学習されるのかを示す「学年別漢字配当表」がある。しかし、音楽科においてこれらの共通事項は「児童の学習状況を考慮して取り扱うように」と学習指導要領に示されている。(図1)

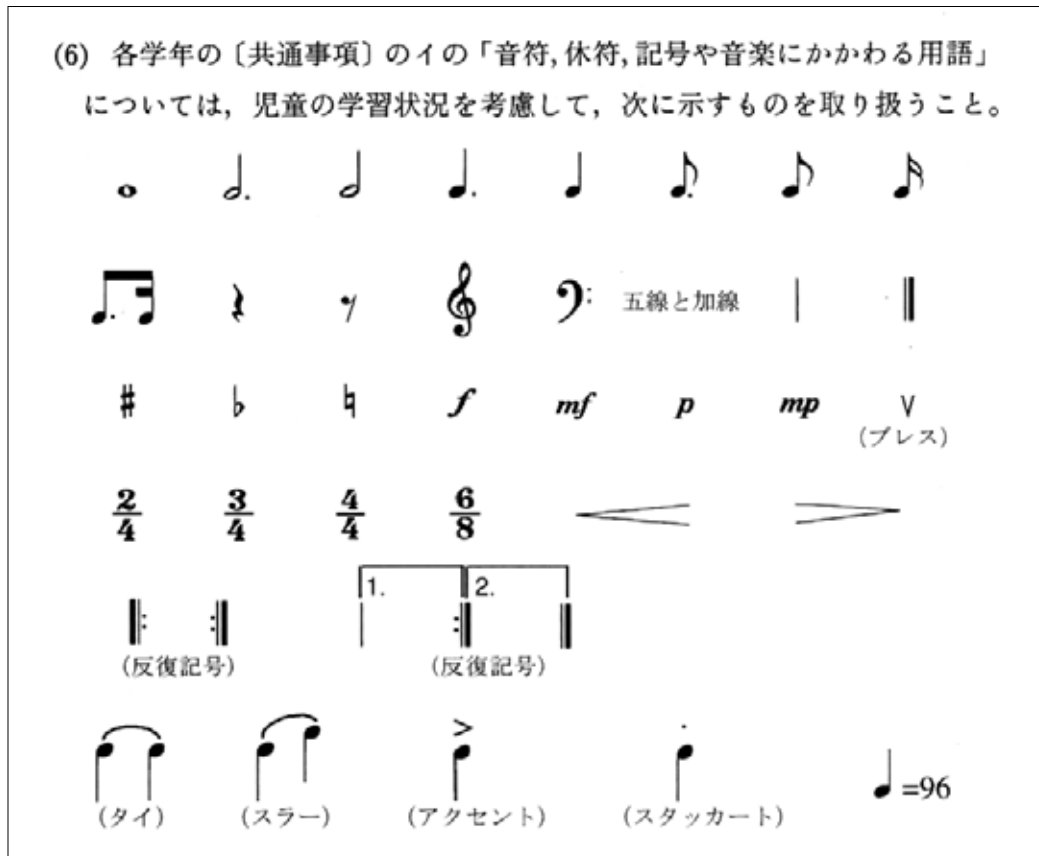


図1.〔共通事項〕として挙げられている37の音楽的内容

学習指導要領解説には、「指導にあたっては、表現及び鑑賞の各活動の中で指導し、〔共通事項〕に示す内容のみを扱う学習にならないように配慮することが必要である。」と述べられている。それはこれらの〔共通事項〕の学習が、記号の書き方の練習や、記号の意味だけを説明する音楽理論的な指導にならないように注意を喚起している。学習指導要領の各学年の「鑑賞」の項目には、〔共通事項〕について以下のように述べられている。
























イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

そして、学習指導要領解説は、この内容を以下のように説明している。

「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の指導については、単にその名称や意味を知ることだけでなく、表現及び鑑賞の様々な活動の中で、児童がその有用性を実感しながら意味や働きを理解し、表現及び鑑賞の各活動に用いていくようにすることが重要である。指導に当たっては、児童の発達や学習状況に配慮しながら、意図的、計画的に取り上げるようにすることが大切である。」

そこで、現行の音楽科教科書では、これらの〔共通事項〕がどのように意図的、計画的に取り上げられているのかを見てみよう。表1は「小学生の音楽」（教育芸術社）において共通事項のそれぞれの音楽的内容が各学年の教科書でどのように扱われているかをまとめたものである。

表1. 「小学生の音楽」における共通事項の取り扱い

音楽的内容		初回掲載			説明	
記号	名前	学年	ページ	曲名	学年	ページ
	全音符	2年	66	手のひらをたひように	5年	23、70
	付点2分音符	1年	70	アイアイ	3年	19
	2分音符	1年	21	しろくまのジェンカ	2年	36
	付点4分音符	1年	8	ひらいたひらいた	3年	21
	4分音符	1年	8	ひらいたひらいた	2年	27
	付点8分音符	1年	14	かたつむり	4年	9
	8分音符	1年	8	ひらいたひらいた	2年	30
	16分音符	1年	8	ひらいたひらいた	4年	9
	「タツカ」	1年	14	かたつむり	(4年)	70
	4分休符	1年	8	ひらいたひらいた	2年	27
	8分休符	1年	8	ひらいたひらいた	2年	30
	ト音記号	1年	8	ひらいたひらいた	3年	9
	ヘ音記号	5年	16	リボンのおどり	5年	16-17
	五線と加線	1年	8	ひらいたひらいた	3年	9
	縦線	1年	8	ひらいたひらいた	3年	9
	終止線	1年	8	ひらいたひらいた	3年	9
	シャープ	1年	20	しろくまのジェンカ	4年	43
	フラット	1年	16	じゃんけんぼん	5年	27
	ナチュラル	1年	20	しろくまのジェンカ	5年	27
	フォルテ	4年	24	ゆかいに歩けば	4年	24
	メゾフォルテ	4年	20	風のメロディー	4年	21
	ピアノ	4年	20	風のメロディー	4年	21
	メゾピアノ	4年	20	風のメロディー	4年	21

















音楽的内容		初回掲載			説明	
記号	名前	学年	ページ	曲名	学年	ページ
	ブレス	1年	8	ひらいたひらいた	3年	12
$\frac{2}{4}$	4分の2拍子	1年	8	ひらいたひらいた	3年	25
$\frac{3}{4}$	4分の3拍子	1年	26	うみ	3年	31
$\frac{4}{4}$	4分の4拍子	1年	57	やまびごっこ	3年	21
$\frac{6}{8}$	8分の6拍子	4年	20	風のメロディー	4年	21
	クレシェンド	4年	20	風のメロディー	4年	21
	デクレシェンド	4年	20	風のメロディー	4年	21
	リピート	1年	16	じゃんけんぼん	4年	15
	括弧付きリピート	4年	23	せいじゃの行進	4年	23
	タイ	1年	20	しろくまのジェンカ	3年	31
	スラー	1年	8	ひらいたひらいた	5年	49
	アクセント	5年	16	リボンのおどり	5年	17
	スタッカート	1年	20	しろくまのジェンカ	4年	23
	速度記号	1年	8	ひらいたひらいた	6年	12
学習指導要領の〔共通事項〕に含まれていない音楽的内容						
	リズム符頭	1年	16	じゃんけんぼん	説明なし	
<i>D.C. / Fine</i>	ダ・カーボ フィーネ	1年	20	しろくまのジェンカ	(1年)	20
	シンコペーション	1年	29	たのしくふこう	説明なし	
	2分休止符	2年	5	メッセージ	5年	70
	全休止符	2年	5	メッセージ	5年	70
	音階・階名	1年	36	—	3年	9
	コーダ	3年	57	帰り道	(3年)	57
	3連符	3年	58	ゴーゴーゴー	(3年)	58
	長休止	3年	62	またあそぼ	(3年)	62
<i>D.S.</i>	ダルセーニョ	3年	64	ミッキーマウスマーチ	(3年)	64-65
<i>ff</i>	フォルテッシモ	4年	60	いつだって!	(4年)	60
	16分休止符	6年	56	あすという日が	5年	70
	2拍3連	6年	59	この星に生まれて	(6年)	59

※表中の括弧書きは、新しい記号の意味や書き方などの詳しい説明がなく、ただし書き程度の補足説明のみ与えられている場合を表している。

表1の分析結果を見ると、驚くべきことが次々と明らかになってくる。まず、小学校における6年間の音楽教育で学ぶべき音楽的内容である37の〔共通事項〕のうち、実に26項目が何の説明もなしに1年生の教科書に出てくるということである。これは全ての〔共通事項〕の70%にも及ぶ。これが何を意味しているのか、先に述べた国語科の教科書と再び比べてみると、「6年間で学ぶ1,006字の漢字の約7割の未習漢字が1年生の国語の教科書に平然と載っている」ということになるのではないか。これまで幼稚園や保育園で歌を全て聴唱（範唱を聴いてからまねして歌う方法）によって学んできた子どもたちが小学校に入学し、1学期のはじめに目にする音楽の教科書いきなり意味不明の記号がずらりと並んでいるのである。1年生の教科書に最初に登場する楽譜は8ページの「ひらいたひらいた」であるが、表を見れば明らかのように、この楽譜には、〔共通事項〕のうち14もの音楽的内容が何の説明もなく出てくる。

前に述べたように、学習指導要領では「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の指導については、……児童の発達や学習状況に配慮しながら、意図的、計画的に取り上げるようにすることが大切である。」とされているのにも関わらず、この教科書はそれを利用する児童の音楽的背景や学習心理、発達段階などを考慮して作られているようには思えない。では、教育出版の「音楽のおくりもの」はどうだろうか。表2は「音楽のおくりもの」（教育出版）において共通事項のそれぞれの音楽的内容が各学年の教科書でどのように扱われているかをまとめたものである。

表2. 「音楽のおくりもの」における共通事項の取り扱い

音楽的内容		初回掲載			説明	
記号	名前	学年	ページ	曲名	学年	ページ
	全音符	2年	14	びよんびよこ ロックンロール	2年	15、69
	付点2分音符	1年	56	おおきなかぶ	3年	9、71
	2分音符	1年	21	しろくまのジェンカ	2年	15、69
	付点4分音符	1年	11	ひらいたひらいた	3年	9、71
	4分音符	1年	6	かもつれっしゃ	2年	15、69
	付点8分音符	1年	14	かたつむり	4年	13、75
	8分音符	1年	6	かもつれっしゃ	2年	15、69
	16分音符	1年	10	ひらいたひらいた	4年	13、75
	「タッカ」	1年	14	かたつむり	4年	13
	4分休符	1年	6	かもつれっしゃ	2年	15、69
	8分休符	1年	10	ひらいたひらいた	2年	17、69
	ト音記号	1年	6	かもつれっしゃ	3年	9、71
	ヘ音記号	5年	12	茶色の小びん	5年	13、75
	五線と加線	1年	6	かもつれっしゃ	3年	9、71
	縦線	1年	6	かもつれっしゃ	3年	9、71
	終止線	1年	6	かもつれっしゃ	3年	9、71

音楽的内容		初回掲載			説明	
記号	名前	学年	ページ	曲名	学年	ページ
	シャープ	1年	20	しろくまのジェンカ	4年	13、75
	フラット	1年	7	かもつれっしや	5年	28、75
	ナチュラル	1年	21	しろくまのジェンカ	3年	51
	フォルテ	5年	7	クラブ フレンズ	5年	7、75
	メゾフォルテ	5年	7	クラブ フレンズ	5年	7、75
	ピアノ	5年	7	クラブ フレンズ	5年	7、75
	メゾピアノ	5年	7	クラブ フレンズ	5年	7、75
	ブレス	1年	10	ひらいたひらいた	3年	7、71
	4分の2拍子	1年	10	ひらいたひらいた	4年	18、75
	4分の3拍子	1年	24	うみ	4年	21、75
	4分の4拍子	1年	6	かもつれっしや	4年	20、75
	8分の6拍子	4年	56	半月 (バンドル)	5年	25、75
	クレシェンド	4年	28	とんび	4年	29、75
	デクレシェンド	4年	28	とんび	4年	29、75
	リピート (反復記号)	1年	22	わくわくキッチン	4年	42、75
	括弧付きリピート	1年	29	どれみのキャンディー	5年	13、75
	タイ	1年	20	しろくまのジェンカ	4年	13、75
	スラー	1年	10	ひらいたひらいた	5年	25、75
	アクセント	5年	7	クラブ フレンズ	5年	7、75
	スタッカート	1年	20	しろくまのジェンカ	4年	27、75
	速度記号	1年	6	かもつれっしや	5年	7、75
学習指導要領の〔共通事項〕に含まれていない音楽的内容						
	リズム符頭	1年	7	かもつれっしや	説明なし	
<i>D.C. / Fine</i>	ダ・カーポ フィーネ	1年	20	しろくまのジェンカ	(1年)	20
	コーダ	1年	63	おんがくのおくりもの	(1年)	63
	長休止	1年	64	さんぼ	4年	64
	3連符	1年	64	さんぼ	(3年)	58
	シンコペーション	1年	52	フルーツケーキ	説明なし	
	グリッサンド	2年	3	ジェットコースター	説明なし	
	付点8分休符	1年	64	さんぼ	説明なし	
	2分休符	使われていない				
	全休符	4年	25	「もののけ姫」から	4年	35、75

体系的な音楽教育のための音楽科教科書の課題










音楽的内容		初回掲載			説明	
記号	名前	学年	ページ	曲名	学年	ページ
	音階・階名	1年 2年	26 19	どれみのうた	5年	15
	テヌート	4年	58	まきばのこうし	(4年)	58
	2分の2拍子	4年	69	音楽のおくりもの	(4年)	69
	16分休符	5年	16	花	説明なし	
	付点16分音符	5年	22	組曲「カレリア」から	説明なし	
	32分音符	5年	22	組曲「カレリア」から	説明なし	
	2拍3連	5年	48	君をのせて	(5年)	48
	ダルセーニョ	5年	46	ルパン三世のテーマ	(5年)	46
	ピアノッシモ	5年	59	大切なもの	(5年)	59
	フェルマータ	5年	59	大切なもの	(5年)	59
	トレモロ	5年	65	エイト メロディーズ	(5年)	65
	ハ音記号	6年	19	交響曲「運命」から	説明なし	
	装飾音符	6年	36	越天楽今様	(6年)	36
	繰り返し記号	6年	66	八木節	(6年)	66

表2から「音楽のおくりもの」の教科書の方がどちらかと言えば段階的に音楽的内容が教えられていることがわかる。しかし驚くのは、この教科書の中では、6年生になっても「2分休符」が一度も使われていないことである。4分休符や8分休符などは、それぞれに対応する音符が登場するときに、同じ長さの音符と休符のペアで紹介されているにもかかわらず、2分音符が出てくるときに2分休符については教えられないのである。これは学習指導要領の〔共通事項〕に含まれていないからであろうが、非常に基本的な音楽の要素である2分休符が6年生になっても出てこないのは甚だ疑問である。そのために、この教科書では2分休符の代わりに4分休符を2つ並べ、付点2分休符の代わりに4分休符を3つ並べている。

全休符については4年生以降、比較的頻繁に見られるが、これも学習指導要領の〔共通事項〕に含まれていないため、毎回「はってん」という印とともに登場する。不思議なのは、基本的な音楽に不可欠な2分音符がどこにも出てこないのに、〔共通事項〕に含まれていない応用的な24もの音楽的内容が「音楽のおくりもの」の教科書に出てくることである。表をみて明らかのように、中には全く説明なく使われているものもある。また、表の中で、掲載学年が括弧書きになっているものがあるが、これは「新しい音楽的内容」としてではなく、「注釈」的にごく簡単な説明が載っていることを意味している。

幼稚園や保育所から小学校に入学した子どもたちが、1学期の初めの音楽の授業で使う教科書に、意味不明な音楽記号がたくさん載っているという状況をできるだけ早く改善する必要があるのではないか。

4. まとめ

本論では、平成27年度に発行された最新の音楽科教科書を〔共通事項〕の配当学年という観点から分析を行った。そこから明らかになったことは、「小学生の音楽」と「音楽のおくりもの」の教科書はともに小学生の音楽的背景や学習心理に添ったものとは言い難く、また一貫したメソドロジーや学習内容の系統性や連続性が見受けられなかった。これは学習指導要領解説で述べられている「基礎的・基本的な知識・技能」を「体験的な理解や繰り返し学習」を通して「発達の段階に応じて徹底して習得させ、学習の基盤を構築していく」ことを達成するのを極めて困難なものにしている要因となっている。

音楽を構成する最も基本的な要素である音程・音階についても、驚くべきことに1年生の教科書に1オクターブのスケールが一度に紹介されているのである。「小学生の音楽」では、ドレミが書かれたカラフルな風船が上下に並んでいるのだが、音階には「全音」と「半音」があるという音楽的に非常に大切な点を無視してすべての風船が等間隔に並んでいるのである。音階のすべての音を1年次に一度に紹介すること自体、音楽教育の世界においては普通ではないが、これでは子どもたちの音感を豊かに養うことは難しいであろう。昭和6年に発行された『唱歌教授の実際』の中でも、山本正夫は音階および音程について、「長音階は尋常三年から授ける。其の以前は音階としては授けないが、發聲練習旁々五聲音階を謡はせる。後これを階名にするのである。尋常一年からいきなり七聲音階を授けることは、世界各國の音楽教育には、其の類例がなく、文明國では日本ばかりである」と述べている。それから80年以上が経つ現在でも、1オクターブの7音は1年生の教科書に突然登場している。

日本における音楽教育の現状を鑑みると、音楽科教科書を使う児童の視点と、一貫したメソドロジーや段階的な系統性の面から、音楽科教科書の再構築が急務となっているのではなかろうか。まずは日本の文化的側面、また音楽的時代背景に則した音楽教育のメソドロジーを明確に確立する必要があるのではないか。平成30年から新しい学習指導要領が順次実施されていくことになっているが、この課題を解決する方向性が示されることを願っている。

Abstract

The Curriculum guidelines produced by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology in Japan and their accompanying guidebook specify 37 musical items as “common musical concepts” that are supposed to be taught in the elementary music education. However, they do not specify when and how each of those musical concepts needs to be taught. Therefore, each publisher of music textbooks treats them differently. In this study, both of the two current Japanese music textbooks were analyzed and compared to find out how these common musical concepts are treated and to see if they reveal any systematic and/or logical methodology or any issues in order to teach these concepts effectively.

引用・参考文献

- 小原光一他（2015）『小学生の音楽 1～6』教育芸術社.
新美德英他（2015）『音楽のおくりもの 1～6』教育出版.
文部科学省（2008）『学習指導要領解説音楽編』教育芸術社.
山本正夫（1931）『唱歌教授の実際』文化書房.

